

「柏崎の水」

こうち 川内 白雲滝 その1

鯨波海岸に流れ出る二級河川前川を遡ると、川内（河内）集落にたどり着く。川内という地名の由来は、河内の国、和泉の国の人たちが流れ住みついたからとも、前川の上流（河の内）にある土地だからとも言われている。川内集落のさらに奥の水源池・川内ダムは、柏崎に水道水を供給するために作られたダムである。白雲滝はこの水源地にある。

当時の柏崎町民の生活水であった井戸の水質は、海側では良好だが南側の低地では衛生上問題のあるものが多かった。また、大火により幾度も街が焼失したことから消防の面でも水道の必要性が叫ばれた。当時は不景気であったことから賛否両論が激しく対立したが、「水道建設は都市形成の重要要件である」との信念を持つ町長西巻進四郎が強力に推進し、昭和12年にダムが完成、13年5月25日には柏崎小学校において竣工式が盛大に行われた。

この川内ダムの水源が白雲滝である。白雲滝には「男滝」と「女滝」があり、昭和初期に発行された「海の鯨波案内」では、御野立公園や福浦八景などと並んで次のように紹介されている。

『 白雲の夫婦滝

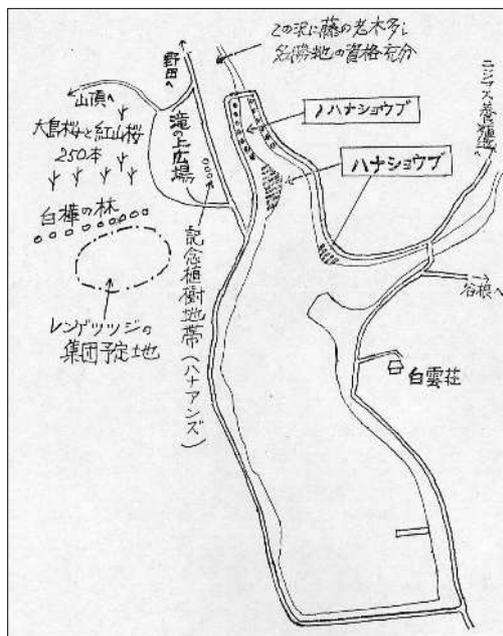
海と反対の、駅から南へ約十八町、鬱蒼たる溪谷に白煙をあぐる二つの滝があります。これを白雲の滝と称します。女滝は落水やや温く、



白雲滝（明治35年頃）
「蒼海ばのらま」所収

男滝のそれはしぶきをあぶるのみにて既に冷感肌を刺し、一度手先を流水に触れんか、寒冷身をふるはせませす。』

女滝は「滝の上」と呼ばれる場所にあったが、ダムの完成により水没してしまった。その後、根立宗一郎氏によって「滝の上広場」の土地が寄贈され、昭和43年4月には柏崎植物友の会がこの広場で市民植樹祭を行った。小林治助市長をはじめ多くの市民が、結婚、進学、子供の誕生などを記念して、ユキツバキ、シラカバ、ツツジを植えた。このときの寄付者の名前は、滝の上広場に設置された御影石のベンチに今でも刻まれている。



昭和42年当時の川内ダム付近の見取図
「植物の友」第23号（昭和42年6月1日発行）より

参考にした本

- 「海の鯨波案内」鯨波保勝会 編（292 クシ）
- 「北門 No. 5」柏崎ガイド（050 Kカイ）
- 「柏崎町水道抄誌」柏崎町水道課（518 Kスイ）
- 「植物の友」柏崎植物友の会（470 Kシヨ）